

今を生き未来を創る私たちが率先して環境問題とフードロスについて考え出来ることを実践しSDGs達成に向けて取組む決議

「地球が悲鳴を上げている」ー地球という星が存続できるかどうかの岐路に立つ、そんな時代に高校生として私たちが今、感じていることだ。

世界には多くの問題がある。その問題の多くは、人間の活動によって引き起こされているものだ。最近、国際連合が2030年をゴールとしてSDGsという持続可能な開発目標を示しているように、世界が一丸となって地球が滅びないように取組むべき時が来ている。私たちも例外ではない。

2004年に公開された映画「デイ・アフター・トゥモロー」は、地球温暖化によって氷河期がもたらされる内容であるが、公開当時は現実味を帯びていなかった映画の内容が、近年の激甚化する災害を見ていると現実のものとなりつつあるのではと恐怖を感じる。

実際に、大雨による被害がここ数年で増え、令和元年東日本台風では、私たちが住み暮らす本庄市でも床下浸水などの被害が多数あった。

このまま地球温暖化が進み、もっと猛暑となり、災害も増えてしまつては、本当に地球に氷河期が来てしまうかもしれない。

また、大きな問題となっているのは、フードロス問題だ。世界では今、約8億2100万人が飢えに苦しんでいる。後進国や途上国と言った貧困に苦しむ国や農業が主となる国で多く見られ、食糧不足により、飢餓に陥っている。

その一方で、世界では毎年の食品廃棄物の量は13億トンにもなっている。日本では2016年の食品廃棄物が年間2842万トンも出ており、そのうちの646万トン、約22.7%がフードロスとされる。その一つの原因は、多くの食べ残しだ。例えばビュッフェ形式のお店で食べきれずに残したり、食べ切れる以上の食品を購入して廃棄したり、販売期限の切れたまだ食べられるお弁当などを捨ててしまう問題がある。

その他、マイクロプラスチックによる海洋汚染、貧困や紛争や感染症など、人類はこれまでになかったような数多くの課題に直面している。これらの課題は、決して私たちに関係がない、遠い世界の話ではない。私たちの唯一の星地球、そして私たちのまちで起きていることだ。その地球を守るために、いま私たちにできることは、一人ひとりがそれを意識し、まずは自分で小さなことを実践し、そしてその取組の輪を広げ、大きな取組みと繋げていくことである。このような小さな取組みの積み重ねが世界全体で行われることにより、地球全体でSDGsの達成へと繋がっていく。

上記のような観点から、緑豊かで自然に恵まれた環境にやさしいまち本庄市を、私たちの世代からさらに次の世代へと引き継ぎ、持続可能なまちづくりをさらに

推進するため、私たち高校生議員一人ひとりが、環境問題に関心を持ち、行動しなければいけない。そのため高校生議員が各学校で中心となって、率先して下記のような取組みを行い、高校生議員以外の高校生も巻き込んだ活動を行う。

- 1 地球温暖化対策として、大気汚染を防ぐため、積極的に自転車を使い行動する
- 2 地球温暖化対策として、使わない電気機器のスイッチをこまめに切る、効率の良い使い方をするなど、節電と省エネを心掛ける
- 3 緑のカーテンやすだれなどを設置し、部屋に直射日光が当たらないよう各家庭や学校において推進する
- 4 プラスチックゴミの削減を図るため、できるだけマイボトルを持つようにするなど、一人ひとりが出来ることを考えて行う
- 5 水質汚染を防ぎ、生態系を守り生物多様性を保護するべく、環境に優しい洗剤を使うよう各家庭や学校で推進する
- 6 フードロス問題の解決を図るため、食べ切れる分だけを買って、食べ残しをしない
- 7 美しい地域を自分たちで作るため、ゴミ拾いなどの活動をする
- 8 各家庭や学校で花や植物を植える活動をし、少しでも緑のある環境を作る

以上、ここに決議する。

令和3年8月18日

本庄市議会高校生議会